

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

—2024年6月18日第129号—

<目次>

● 川崎市のまちづくりはこれでいいのか

■ 「川崎のよりよい保育と子育てを考える会」が発足

▲ お知らせコーナー

- ① 6/22 鹿嶋田・新川崎まちづくりの会-音楽行事と講演会-
- ② 6/23 学校給食費無償化を実現する会結成のつどい
- ③ 6/23 平和へのバトン
- ④ 6/27 大和ハウス本社前行動
- ⑤ 6/28～7/3 戦争の加害展 in 麻生 2024
- ⑥ 6/29 ゆめシネマ「マリウボリの 20 日間」
- ⑦ 7/6 リニア新幹線の中止を求める首都圏ネット結成記念講演会
- ⑧ 7/7 川崎母親大会

★編集後記

● 川崎市のまちづくりはこれでいいのか

<「積水ハウスが国立市完成直前マンション解体」の報道に驚き>

6月12日、東京新聞の1面に、「富士見通りから見える富士山が隠れる」という理由で、積水ハウスが7月に引き渡し予定だった分譲マンションを解体する。その背景には、景観に対する国立市民の高い住民意識がある。」報じています。

記事で注目したのは、マンション建設に対する行政や市議会の対応です。

- ・まちづくり審議会は、当初から「景観として違和感がある。」と指摘。
- ・国立市議会は、計画の見直しなどを求める陳情を全会一致で採択。
- ・国立市は、建物のボリューム感の低減を求める意見書を積水ハウスに交付。

住みよいまちづくりについての住民意識では、私たち川崎市民も負けてはいないでしょう。しかし、行政や市議会の対応のあまりの違いに驚きます。

<川崎市のまちづくり計画に異議あり>

6月15日に、「現宮前区役所を存続し、鷺沼駅前再開発を考える会」主催で「再開発・タワーマンに異議あり！住民懇談会」が開催されました。

今、川崎市内の武蔵小杉北口、鷺沼駅前、登戸駅前に、高さ約150mの巨大なタワーマンション建設計画が発表され、各地で、まち壊しを許さない！と住民の反対運動が起きています。

具体的内容はさまざまですが、同じ川崎市の都市再開発方針にそってすすめられています。

それならば、住民の側も共同して、川崎市の再開発事業に反対していこうと、この日を迎えたのです。

会場には、宮前区民を中心に、多摩区、中原区からも参加があり、会場は満員となりました。

報告は、3地区から各地の現状と運動を報告し、総括的な報告が最後にありました。

1. 鷺沼再開発現状と運動(宮前区を考える会事務局長、猪俣博)
2. 登戸区画整理とタワーマン(登戸の街づくりの会、弁護士、林雄介)
3. 小杉駅北口再開発(小杉・丸子まちづくりの会事務局長・橋本稔)
(3地区の報告は、民主市政をつくる会のホームページで紹介していきます。)
4. これでいいのか川崎のまちづくり(川崎市議会議員、石川建二)

石川議員は、「川崎市が、開発業者に対し、これまでも多額の補助金を出してきた。武蔵小杉の再開発では総事業費の平均33%が国、県、市が拠出する補助金になっている。しかし、大企業をさらに儲けさせるために、川崎市は、今年度中にも、「立地適性化計画」を川崎市の再開発に適用し、補助金の割合を増やすことをねらっている。」と指摘しました。

<市民が知らないうちに、新たな事業者優先の仕組みづくりが始まっていた。>

立地適性化計画が適用されると、補助金がかさ上げされます。

事業費のうち、土地整備費や共同施設整備費に対し、国が45%、自治体が45%の補助金をだすようになります。

事業者は、残りの10%の負担だけで、これまでの3分の1に軽減されます。

こんな大企業優遇策を、川崎市は、今年度中に計画策定するスケジュールで進めようとしています。

市のホームページに掲載されたとはいえ、市民がほとんど知らないうちに、川崎市は大企業、開発ディベロッパー優先の税金の投入をすすめようとしているのです。

これでいいのか、川崎のまちづくり！ と叫ばずにはられません。

メルマガ新しい川崎でも、この新たな大問題への追及を進めていきます。

読者のみなさんからの投稿をお願いします。(H)

■「川崎のよりよい保育と子育てを考える会」が発足

昨年の8月、川崎の公立保育所保育士のOB、現職保育士、保育運動を長年してきた人がつどい、保育現場で何が起きているか話し合いました。

保育士の配置基準がこのままではもう限界、職場で言いたいことが言えない。

「4月当初から保育士が3人欠員でスタートした。」「業務が増えて余裕がないため疲弊している。」など厳しい実態が出されました。

私たちは現場で頑張る保育士を支え、子ども達のよりよい育ちの保障ができるよう、学びつながらを作ろうとこの間話し合いを重ね「川崎のより良い保育と子育てを考える会」を設立しました。

<76年ぶりに4～5歳児の保育士配置基準が改正されますが、>

保育運動の高まりで、4～5歳児の保育士配置基準が改善され6月議会で条例が改正されます。しかし、行政は会計年度保育士を活用すると言っています。

公立保育所では、園庭開放、出前保育、保育相談など地域の子育て支援を担い最近では医療的ケア児の受け入れも実施。

業務量の増大に見合うだけの保育士が増員されておられません。

さらに、1～2歳児は今なお6対1のまま。

<子ども誰でも通園制度の本格試行始まる>

親が未就労でも6ヶ月児から2歳児の乳児が、1ヶ月10時間を上限に通園できるこの制度。国は全国どこからでもアプリで直接事業所に申し込めると宣伝。

川崎市は市内45の保育施設を公表し、6月17日から利用申し込みを受け付け、6月24日から実施します。

利用は川崎市民に限り、事前面談をしてアレルギーなどの状況を把握するとしています。

<しかし子どもの安全は保てるのか。>

今でも保育士が足りないのに新たな子どもが日替わり、短時間の保育で現場の負担はさらに大きくなります。

基本的に保育士配置の抜本的な改善が必要です。

<発足講演会=こどもの権利・保育現場の実態・保護者の願いをみんなで考えよう>

6月8日に、中西新太郎先生の講演会を行い、39人が参加しました。

中西先生は、保育運動で76年ぶりに配置基準が改善されたが働き方は楽になるだろうか。

子ども家庭庁が創設され、架け橋プログラム、子ども未来戦略方針、子ども誰でも通園制度など保育のあり方を大きく変える政策が同時に進められているなどと話されました。

参加者から、「保育が楽しくないと言う人が増えている。」「人員を増やし、業務量を減らすことが必要と思うがなかなかできない」など多数の感想文が寄せられました。

今後、民間も含め現場の人たちとの結びつきを作りながら豊かな保育、子育てができる川崎にするため市民と力を合わせてまいります。

川崎のよりよい保育と子育てを考える会代表 石田和子

★お知らせコーナー

① 音楽行事と講演会「人間の顔をしたまち」

——人と地域をつなぐ南武線に——

6/22(土)14時～16時

@新川崎・鹿嶋田駅周辺整備事務所

参加費:500円

- ・日本の民謡と尺八演奏
- ・南武線開かずの踏切解消、報告と意見交流
- ・まちづくり講演会「環境にやさしい住まい——その2」

講師:金田正夫氏 無垢里一級建築事務所主宰・工学博士

連絡先:080-1225-5411(佐藤)

[詳しくはこちら](#)

② 「学校給食費無償化を求める会」スタート

6/23(日)

9時45分～映画「希望の給食」上映

10時30分～感想交流と結成のつどい

@産業振興会館第4研修室

資料代 300円

連絡先 市古(090-7830-8030)

[詳しくはこちら](#)

③ 平和へのバトン～第7回 平和を願い、実現するための集い～

6/23(日)13:30 – 16:30

@かわさきゆめホール

主催: 平和を願う会

問い合わせ

萩坂心一 044-935-0313

hagisaka@dab.hi-ho.ne.jp

[詳しくはこちら](#)

④ 大和ハウス本社前行動

～建てるな巨大物流倉庫！～

6/27(木)11時

東横線武蔵小杉駅ホーム東京寄りに集合

12時～13時 飯田橋、

大和ハウス本社前アピール行動要請文を提出

⑤ 戦争の加害展 in 麻生 2024

6月28日～7月3日

@麻生図書館内麻生市民ギャラリー

連絡先 若槻(080-8725-8360)

[詳しくはこちら](#)

⑥ ゆめシネマ「マリウポリの20日間」

6/29(土) ①9時②12時③15時④18時

@かわさきゆめホール

一般:1000円

障がい者:500円

学生以下:200円

[詳しくはこちら](#)

⑦ リニア新幹線の中止を求める首都圏ネット結成記念講演会

「掘るのは怖い、乗るのも怖いリニア」

大塚正幸氏(トンネル施工技術者)

7/6(土)14時

@エポックなかはら7階大会議室

資料代 500円

連絡先 矢沢(090-6108-6568)

⑧ 川崎母親大会

7/7(日) 10時～分科会

- (1) 映画「梅切らぬバカ」
- (2) 包括的性教育ってなに？
- (3) みんなちがって・・・当たり前
- (4) 日本の食糧と農業のいま
- (5) 巨大物流倉庫でなく、緑豊かな市民ミュージアムを

13時10分～全体会

文化行事:ヴァイオリン独奏:金澤文さん

記念講演:根本隆さん「心豊かに暮らしたい」～軍事費より社会保障の充実を～

[詳しくはこちら](#)

★編集後記

民商の総会も近づき、友人からソーラーパネルの有効性を教えて欲しいとの要望もあり、導入効果を確認しました。

約300万円で設置したソーラーパネルですが、5年でもう元が取れている！

これには電気代の高騰も追い風。

自家消費では使い切れず、毎月 1 万円前後の売電収入が発生。

年間で、電気代にして 60 万円相当の発電量があることがわかりました。

電力の購入価格は下がり続けていますが、電気代が上がっているので、売電より電気を買わずに済む効果が絶大です。

2011 年の東日本大震災による原発事故の教訓から 2 年、「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」実行委員会の有志が、[「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」](#)という団体を立ち上げました。

以後、次々と発電所を作ってきています。

本来、行政がやるべきことかもしれませんが、水素にご執心の川崎市は民間任せ。

補助金の制度がありますが、制約だらけで、補助額もすずめの涙です。

本気で普及しようとしているようには思えませんね。

大きな病院などは蓄電池と合わせて設置すれば、災害で電気が止まったときの補助電力としても使えます。

ご興味のある方は以下のアドレスまでご連絡を。(Y)

genpatuzero.hatuden@gmail.com

☆☆[チェンジかわさき!](#)☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/zIj873WeurNL?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp